

入札公告

条件付一般競争入札を行うので、地方自治法施行令(昭和22年政令第16号。以下「施行令」という。)第167条の6第1項及び福島県財務規則(昭和39年福島県規則第17号。以下「財務規則」という。)第246条第1項の規定により公告する。

平成20年11月17日

福島県立磐城桜が丘高等学校長 佐々木孝司

1 入札に付する事項

- (1) 工事番号 08-79600-0003
- (2) 工事名 磐城桜が丘高校耐震改修工事(1期)
- (3) 工事箇所 いわき市平字桜町 地内
- (4) 工事概要 R C造4階建て 対象延床面積 1,320㎡
 - 1 鉄骨ブレース設置 14箇所
 - 2 R C造耐震壁増設 1箇所
 - 3 R C造壁開口部改修 4箇所 他1式
- (5) 完成期限 平成21年3月25日限り
- (6) 予定価格 64,829,100円(消費税及び地方消費税相当額を含む。)この工事は、予定価格事前公表工事である。
- (7) この工事は、施行令第167条の10第2項に基づき最低制限価格を設定する工事である。
- (8) この工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成12年法律第104号)に基づき、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務付けられた工事である。

2 入札に参加する者に必要な資格に関する事項

入札に参加する者は、次に掲げる条件及び入札説明書に掲げる条件をすべて満たしている者であること。

- (1) 「福島県平成19・20年度工事等請負有資格業者名簿」(以下「有資格業者名簿」という。)の建築工事に登録され、建設業法(昭和24年法律第100号)の許可業種建築工事業の許可を得ている者であること。
- (2) 有資格業者名簿の建築工事の格付等級がA(総合点1,000点以上)の者であること。
- (3) 県内に本店を有する者であること。
- (4) 元請として、過去10年間に、鉄筋造又は鉄筋コンクリート造の耐震改修工事の施工実績がある者であること。

3 入札参加手続等

- (1) 本件入札においては、開札後に入札参加資格の審査を行うため、事前の入札参加申請手続等は要しない。

(2) 設計図書、契約の条項、入札説明書等の閲覧期間及び閲覧場所

ア 閲覧期間 平成20年11月17日(月)～平成20年12月3日(水)

イ 閲覧場所 いわき市平字桜町5番地
福島県立磐城桜が丘高等学校 事務室

(3) 設計図書等に対する質問及び回答

ア 受付期間 平成20年11月17日(月)～平成20年11月21日(金)

イ 受付方法 入札説明書による

ウ 受付場所 いわき市平字桜町5番地
福島県立磐城桜が丘高等学校 事務室
電話番号 0246-25-9101
ファクシミリ 0246-21-7567
電子メール iwakisakuragaoka.h@pref.fukushima.jp

エ 回答予定日 平成21年11月26日(水)

オ 回答書閲覧方法 福島県立磐城桜が丘高等学校ホームページに掲載する。
アドレス <http://www.iwakisakuragaoka-h.fks.ed.jp/>

4 入札等

(1) 入札書の提出について

入札説明書による。

(2) 入札書等提出期日及び提出先(郵送先)

ア 提出期日 平成20年12月5日(金)(配達日指定期日)

イ 提出先(郵送先) 郵便番号 970-8026
いわき市平字桜町5番地
福島県立磐城桜が丘高等学校 事務室

ウ 提出部数 1部

エ 郵便局差出期限日 平成20年12月3日(水)

オ 入札書のあて先は、「福島県」と記載すること。

5 開札等に関する事項

(1) 開札は公開とする。

ア 開札日時 平成20年12月8日(月) 午前11時00分から

イ 開札場所 いわき市平字桜町番地
福島県立磐城桜が丘高等学校 会議室

(2) 落札予定について

落札予定日 平成20年12月9日(火)

(3) 落札候補者の公表について

入札説明書による。

(4) 入札結果の公表及び方法について

入札説明書による。

6 入札参加資格要件の審査に関する事項

落札候補者が決定した場合は、開札後速やかに当該落札候補者に電話等確実な方法により通知する。なお、落札候補者の入札参加資格要件の審査、落札者の決定及び入札参加不適格の通知については、入札説明書による。

7 入札保証金及び契約保証金

入札保証金及び契約保証金については、入札説明書による。

8 入札の無効

2の入札に参加する者に必要な資格のない者がした入札及び福島県条件付一般競争入札心得において示す入札に関する条件等に違反した入札は、無効とする。

9 その他

その他詳細は、入札説明書による。また、不明な点は次に示すところに照会すること。

問い合わせ先

福島県立磐城桜が丘高等学校 事務室

電話番号 0246-25-9101

ファクシミリ 0246-21-7567

電子メール iwakisakuragaoka.h@pref.fukushima.jp

〈参 考〉 外封筒及び中封筒の貼り付け用紙
(切り線にそって切り取り、外封筒と中封筒の表面に貼り付けてください)

切り線

〒970-8026 いわき市平字桜町5番地	開 札 日 平成20年12月8日
	工 事 名 磐城桜が丘高校耐震改修工事(1期)
福島県立磐城桜が丘高等学校 事務室 行き	工 事 番 号 08-79600-0003
	工 事 箇 所 いわき市平字桜町 地内
郵便局窓口差出期限日 平成20年12月3日	商号又は名称
	担 当 者 名
配達日指定期日 平成20年12月5日	連絡先(電話番号)
	連絡先(FAX番号)

入札書等在中

切り線

切り線

〒970-8026 いわき市平字桜町5番地	開 札 日 平成20年年12月8日
	工 事 名 磐城桜が丘高校耐震改修工事(1期)
福島県立磐城桜が丘高等学校 事務室 行き	工 事 番 号 08-79600-0003
	工 事 箇 所 いわき市平字桜町 地内
郵便局窓口差出期限日 平成20年12月3日	商号又は名称
	担 当 者 名
配達日指定期日 平成20年12月5日	連絡先(電話番号)
	連絡先(FAX番号)

入札書等在中

切り線

留意事項
これまでの条件付一般競争入札において、郵送方法の誤りにより無効となった事例が発生しております。
「郵送の際は、一般書留郵便、簡易書留郵便又は配達記録郵便のいずれかの方法により配達日指定郵便で行ってください。」

入札説明書

1 入札に参加する者に必要な資格に関する事項

入札に参加するものは、次に掲げる条件及び入札公告に掲げる条件をすべて満たしている者であること。

- (1) 地方自治法施行令（昭和 22 年政令第 16 号。以下「施行令」という。）第 167 条の 4 の規定に該当しない者であること。
- (2) 福島県建設工事等入札参加資格制限措置要綱（平成 19 年 3 月 30 日付け 18 財第 6342 号総務部長依命通達）に基づく入札参加資格制限中（指名停止も含む）の者でないこと。
- (3) 会社更生法（平成 14 年法律第 154 号）の規定による更生手続開始の申立てをした者若しくは申立てをなされた者又は民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）の規定による再生手続開始の申立てをした者若しくはなされた者にあつては、当該手続開始の決定の後に「会社更生法に基づく更生手続開始の決定を受けた者の建設工事等入札参加資格の再審査等に関する要領」（平成 14 年 6 月 17 日付け 14 監第 813 号土木部長通知）により資格の再認定を受けた者であること。
- (4) 建設業法（昭和 24 年法律第 100 号。以下「建設業法」という。）第 27 条の 23 の規定に基づく有効な経営事項審査を受けている者であること。

2 入札参加手続等

- (1) 設計図書等に対する質問は、条件付一般競争入札実施要領第 8 条第 3 項の規定により条件付一般競争入札設計図書等に関する質問書（様式第 2 号）により直接持参、ファクシミリ又は電子メールのいずれかの方法で提出すること。
- (2) 現場説明会は行わない。

3 入札等

- (1) 入札書の提出について

入札に参加する者は、入札書及び見積内訳書を以下の方法により郵送しなければならない。なお、入札書及び見積内訳書の参考様式は、別添のとおり。

ア 入札書等の提出は、一般書留郵便、簡易書留郵便又は配達記録郵便のいずれかの方法により配達日指定郵便で行うこと。また、一度提出された入札書等の書換え、引換え又は撤回は認めない。

イ 入札書等の提出は、外封筒と中封筒の二重封筒とする。

ウ 中封筒には、入札書及び見積内訳書を入れ、封かんの上、封筒の表に会社名、工事名、工事番号、工事箇所名及び開札日を記載すること。

エ 外封筒には、入札書等を同封した中封筒を入れ、外封筒の表に、会社名、工事名、工事番号、工事箇所名、開札日、担当者及び担当者連絡先（電話番号・ファクシミリの番号）、入札書等在中の旨を記載すること。

(2) 郵便局差出期限日について

公告に示す郵便局差出期限日は、内国郵便約款上、実際に郵便局に差し出すことが可能な日と異なる場合があるため、事前に、県が指定した配達日指定日に配達日を指定できるか、差出しをしようとする郵便局に必ず確認すること。

4 開札等に関する事項

(1) 落札候補者の公表について

最低価格で入札した者（最低制限価格を下回る入札をした者を除く。）から 3 番目までの者を落札候補者とし、公表する。

ただし、開札時に落札候補者となった者がすべて入札参加資格を有しなかったときは、順次、次の順位の者が落札候補者となる。

(2) 入札結果の公表及び方法について

ア 入札結果の公表は、契約日から 1 週間以内に行う。

イ 公表は、県政情報センター、地方振興局内県政情報コーナー及び福島県ホームページにおいて行う。

5 入札参加資格要件の審査に関する事項

(1) 落札候補者に対する通知

落札候補者が決定した場合は、開札後速やかに当該落札候補者に電話等確実な方法により通知する。

(2) 落札候補者の入札参加資格要件等の審査

落札候補者は、資格確認に必要な書類の提出を求められた場合は、通知のあった日から起算して 3 日以内に条件付一般競争入札資格確認書類送付書（様式第 5 号）に当該書類を添えて提出しなければならない。

(3) 入札参加不適合の通知

落札候補者が入札参加資格を有していないことを確認した場合は、当該落札候補者に理由を付して条件付一般競争入札資格不適合通知書（様式第 6 号）により通知する。

(4) 入札参加不適合理由の請求

ア 入札参加資格のない旨の通知を受けたものは、その理由について説明を求めることができる。

イ アにより説明を求める場合には、通知を受けた日から起算して 3 日以内に条件付一般競争入札参加資格不適合通知書に対する理由説明請求書（第 7 号様式）により提出しなければならない。

ウ イにより書面が提出されたときは、受理した日から起算して 6 日以内に書面により回答するものとする。

(5) 落札者の決定

落札候補者が入札参加資格を有すると確認され、当該落札候補者を落札者とすべきと決定されたときは、速やかに電話等確実な方法により通知する。

6 入札保証金及び契約保証金

(1) 入札保証金

福島県財務規則第 249 条第 1 項第 4 号の規定に基づき入札保証金は免除する。ただし、落札者決定の通知を受けた後、契約締結しない場合には見積りに係る入札金額（消費税及び地方消費税を含む。）の 100 分の 3 に相当する額を納めなければならない。

(2) 契約保証金

落札者は契約金額の100分の10以上の額の契約保証金を納付しなければならない。契約保証金の納付は、福島県工事請負契約約款（以下「約款」という。）第4条の規定による担保の提供をもって代え、又は保証を付したときは免除する。

なお、請負代金額が500万円に達しないときは、契約保証金の納付を免除する。ただし、契約締結後において、請負代金額の変更により変更後の請負代金額が500万円を超えたときは、この限りではない。

7 その他

(1) 入札の方法

落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の5に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その金額を切り捨てた金額）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるを問わず、見積もった契約希望金額の105分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

(2) 契約は、約款によるものとする。なお、契約の方法及び入札の条件、福島県条件付一般競争入札心得を熟知すること。

(3) 書類は原則としてA4判とすること。

(4) 提出書類に虚偽の記載をした場合においては、工事等の請負契約に係る入札参加資格制限を行うことがある。

(5) 経営事項審査について

建設業法第 27 条の 23 及び建設業法施行規則（昭和 31 年建設省令第 14 号）第 18 条の 2 の規定により、契約にあたっては、有効な経営事項審査が必要であるので、経営事項審査の有効期限の確認のため、入札後、契約前に発注者に提出を求められた場合には、経営事項審査の「総合評定値通知書」の写しを提出すること。（契約金額が 500 万円（建築工事にあつては 1,500 万円）以上のものに限る。）

様式第2号（第8条関係）

条件付一般競争入札設計図書等に関する質問書

年 月 日

（入札執行権者）

住 所
商号又は名称
代表者氏名 印
電 話 番 号
（作成担当者）

工 事 番 号	— —
工 事 名	
質 問 事 項	

様式第5号（第21条関係）

条件付一般競争入札参加資格確認書類送付書

年 月 日

（入札執行権者）

住 所
商号又は名称
代表者氏名 印
電 話 番 号
（作成担当者）

年 月 日付けで公告のありました下記の工事に係る入札参加資格の確認に必要な書類について、下記のとおり送付します。

なお、送付書類の内容については、事実と相違ないことを誓約します。

記

工 事 番 号	— —
工 事 名	
送付する書類の件名	

様式第7号（第23条関係）

条件付一般競争入札参加資格不適合通知書に
対する理由説明請求書

年 月 日

（入札執行権者）

住 所
商号又は名称
代表者氏名 印
電 話 番 号
（作成担当者 ）

工 事 番 号	— —
工 事 名	
理 由 の 説 明 を 求 め る 理 由	

(福島県条件付一般競争入札用)

入 札 書

※1

入札金額

百	拾	億	千	百	拾	万	千	百	拾	毫

円也

工 事 名

工事番号

工事箇所

くじの数

--	--	--

※2

上記のとおり入札いたします。

年 月 日

※3

住 所

商号又は名称

代表者氏名

印

(あて先) 福島県 御中

(※1) アラビア数字を用いるときには金額の頭初に「¥」記号を、漢数字を用いるときは金額の頭初に「金」の文字を併記すること。

(※2) 同額入札による「くじ」に使用する。アラビア数字を用いて、任意の値(000～999、空欄をつくらぬこと。012のように0(ゼロ)を記載する)を記入すること。記入がない場合や数字以外の記号・文字が記入された場合は、有資格者コードの下3桁の数値が記載されたものとみなす。

(※3) 入札等の権限を委任された者(支店長や営業所長などでその委任関係を県に登録している者を指す。)が入札する場合には、当該委任された者の住所、名称等を記載し、押印すること。

別紙

郵便入札におけるくじ

条件付一般競争入札の改札の結果、最低価格、第2番目又は第3番目の入札参加者が複数あり、落札候補者の順位を決定できない場合は、「くじ」によりその順位を決定する。
電子入札におけるくじと同様の次の手順で実施する。

1 入札書の「くじの数」欄に任意の値を記入

くじを行う場合に備えて、入札書の「くじの数」欄にあらかじめ任意の値（000～999）を記入する。

なお、記入がない場合などは、有資格コードの下3桁の数値が記載されたものとみなす。

2 くじの手順

- (1) 有資格者コードの小さい者から順にくじ番号（0、1、2・・・）を付与する。
- (2) 同額入札の入札書に記載されたくじの数を合算し、その合計額を入札書の数で除算し、余りを算出する。
- (3) 上記(2)の計算結果による余りと一致した上記(1)のくじ番号の入札参加者を最上位とする。
- (4) 最上位のくじ番号に1を足したくじ番号の入札参加者を2順位とする。
この場合において、最上位のくじ番号に1を足したくじ番号が存在しない場合には、0のくじ番号の入札参加者を2順位とする。
- (5) 2順位のくじ番号に1を足したくじ番号の入札参加者を3順位とする。
この場合において、2順位のくじ番号に1を足したくじ番号が存在しない場合には、0のくじ番号の入札参加者を3順位とする。
- (6) 4順位以下は(5)の規定に準じて順位を決定する。

(例) 入札参加者3名が同額入札の場合

- (1) 有資格者コード順にくじ番号を付与する。

杉妻建設 （有資格者コード 100980021）・・・くじ番号 0

福島建設 （有資格者コード 100980142）・・・くじ番号 1

福島組 （有資格者コード 100982293）・・・くじ番号 2

- (2) くじの数の和を求め、同額入札者で除算し、余りを算定する。

杉妻建設 （くじの数 072） 合計（072 + 123 + 452 = 647）

福島建設 （くじの数 123）

福島組 （くじの数 452） 余り（647 ÷ 3 = 215・・・余り2）

- (3) 順位の決定

最上位は、余り2と一致するくじ番号である福島組

2順位は、2 + 1 = 3のくじ番号が存在しないので、くじ番号0の杉妻建設

3順位は、0 + 1 = 1と一致するくじ番号である福島建設

入札書を無効とする申出書

1 工事名

2 工事番号

上記の入札に関して入札書等を提出しましたが、下記の工事の落札者（落札候補者）となったため、技術者を配置できなくなったことにより入札参加資格を満たさなくなりましたので、申し出ます。

記

発注者名

工事名

工事番号

年 月 日

住 所
商号又は名称
代表者名

印

(発注者)

様

契約の方法及び入札の条件

1 契約の方法

福島県条件付一般競争入札実施要領により条件付一般競争入札とする。

2 入札の条件等

入札時の条件は、福島県条件付一般競争入札心得及び次のとおりとする。

(1) 入札書の記載金額

落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の 100 分の 5 に相当する額を加算した金額（当該金額に 1 円未満の端数があるときは、その金額を切り捨てた金額）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の 105 分の 100 に相当する金額を入札書に記載すること。

(2) 入札保証金

福島県財務規則（以下「規則」という。）第 249 条第 1 項第 4 号の規定に基づき入札保証金は免除する。ただし、落札者決定の通知を受けた後、契約締結しない場合には見積りに係る入札金額（消費税及び地方消費税を含む。）の 100 分の 3 に相当する額を納めなければならない。

(3) 最低制限価格

施行令第 167 条の 13 において準用する第 167 条の 10 第 2 項に基づき最低制限価格を設定する。

(4) 落札者

予定価格の制限範囲内でかつ最低制限価格を下らない最低の価格をもって申込みをした者から第 3 順位までを落札候補者とし、第 1 順位の者から順に入札参加資格確認を行い落札者を決定する。

(5) 契約保証金

規則第 228 条に定める契約保証金は請負代金の 10 分の 1 以上の額とする。契約保証金の納付は、福島県工事請負契約約款（以下「約款」という。）第 4 条の規定による担保の提供をもって代え、又は保証を付したときは免除する。

なお、落札額が 500 万円に達しないときは、契約保証金の納付を免除する。ただし、契約締結後において、請負代金額の変更により変更後の請負代金額が 500 万円以上となるときは、この限りではない。

また、落札者は別紙「契約の保証について」により契約の保証を付すこととする。

(6) 前金払

規則第 112 条で定める前金払は次のとおりとする。

ア 第 1 項に定める前金払 請負代金額の 4 割以内の額（1 万円未満の端数は切捨てる。）

イ 第 2 項に定める中間前金払 請負代金額の 2 割以内の額（1 万円未満の端数は切捨てる。）

(7) 部分払

規則第 238 条で定める部分払は、工事の既済部分に対する代価の 10 分の 9 以内の額（1 万円未満の端数は切捨てる。）とする。ただし、既済部分に対する代価が請負代金の 10 分の 5（中間前払金の約定をするときは、10 分の 6（前金払の約定をしないときは、10 分の 3））を超えた場合に限る。なお、部分払いの回数は規則第 239 条第 3 項の定めるところによる。

(8) 工期

工期は契約日から平成 21 年 3 月 25 日限りとする。ただし、工事の着手時期は契約締結の日から 7 日以内において工事発注者（以下「甲」という。）が指定する日とする。

(9) 建設業退職金共済組合への加入

建設業者は、建設業退職金共済組合に加入すること。

(10) 建設労働者の休養

日曜、祝日、休日は労務者を休業させるよう配慮すること。

(11) 現場代理人等届

乙は、本工事の現場代理人、主任技術者、監理技術者及び専門技術者を定め、契約締結の日から 5 日以内に経歴書を添付して甲に提出すること。

(12) スライド条項に基づく請負代金額の変更

約款第 25 条第 1 項でいう請負代金額の変更は、残工事の工期が 2 箇月以上あり、かつ甲又は乙の請求があったときに行うこととする。また、甲又は乙は、当該条項に該当することを示す根拠資料を添えて請求を行わなければならない。スライドの対象となる残工事（乙の責により遅延していると認められる残工事量は含まない。）は、第 1 項の請求があった日から起算して 14 日以内に監督員が確認する。

(13) 不可抗力による損害の負担

約款第 29 条第 3 項に定める損害額の負担を求めるときは善管処理を裏付ける資料を添付すること。

第 4 項の請負代金額とは、損害額を負担する時点の請負代金額とし、1 回の損害額が当初の請負代金額の 100 分の 1 に満たないものは損害額に含めないものとする。

(14) 下請負に付す場合の遵守事項

工事の一部を下請負に付する場合は、福島県元請・下請関係適正化指導要綱を遵守すること。

(15) 監理技術者

工事現場に専任で配置することとなる監理技術者は、監理技術者資格者証の交付を受けている

技術者を配置すること。

(16) 工事請負契約書

「福島県財務規則の施行について」による工事請負契約書によるものとし、特約条項として別記の条項を必要に応じて挿入する。

(17) 契約確定の時期

地方自治法第 234 条第 5 項の規定により甲及び乙が記名押印したとき確定する。

(18) 入札の際呈示すべき書類は次のとおりとする。

- 1 福島県工事請負契約約款
- 2 設計書（金額抜き）、設計図、仕様書
- 3 福島県元請・下請関係適正化指導要綱

(19) 見積内訳書の提出

入札参加者又は入札参加者の代理人は、見積内訳書（数量、単価、金額等を明らかにしたものに限る。）を提出しなければならない。見積内訳書の提出がない場合は、当該入札は無効とする。

〔別記〕特約条項

- 第1 乙は、福島県工事請負契約約款（以下「約款」という。）第3条第1項に規定する請負代金内訳書の提出を要しない。
- 第2 約款第37条第1項ただし書きの表中、請負代金の額2,000万円以上の場合、甲、乙協議して定める回数は3回（中間前金払をする場合は2回）とする。

契約の保証について

1 落札者は、工事請負契約書案の提出とともに、以下(1)から(5)のいずれかの書類を提出又は提示しなければならない。

(1) 契約保証金に係る契約保証金領収書の提示

[注] イ 契約保証金領収書は、発注者の発する納入通知書により、納入通知書裏面記載の指定金融機関若しくは指定代理金融機関又は関係の出納機関に契約保証金に相当する現金（現金に代えて納付する小切手にあつては、指定金融機関又は指定代理金融機関が振り出したもの又は支払保証したものに限る。）を払い込んで、交付を受けること。

ロ 請負代金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、発注者の指示に従うこと。

ハ 請負者の責に帰すべき事由により契約が解除されときは、契約保証金は、地方自治法第 234 条の 2 第 2 項の規定により福島県に帰属する。なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

ニ 請負者は、発注者へ工事目的物の引渡し後、契約保証金の払渡を求める旨の請求をすること。

(2) 契約保証金に代わる担保としての有価証券に係る保管有価証券領収書の提示

[注] イ 契約保証金に代わる担保となる有価証券の種類及びその担保価額は、次のいずれかに限るものとする。

1 福島県債証券	額面全額
2 国債証券	額面全額の 10 分の 8

ロ 保管有価証券領収書は、福島県出納局審査課又はいわき地方振興局出納室に契約保証金の金額に相当する担保価額の有価証券を払い込んで、交付を受けること。

ハ 上記ロの有価証券が記名証券の場合は、その払い込みの際に売却承諾書及び白紙委任状を添えて払い込むこと。

ニ 請負代金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、発注者の指示に従うこと。

ホ 請負者の責に帰すべき事由により契約が解除されときは、担保とした有価証券は、地方自治法第 234 条の 2 第 2 項の規定により福島県に帰属する。

なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

ヘ 請負者は、発注者へ工事目的物の引渡し後、有価証券の払渡を求める旨の請求をすること。

(3) 債務不履行による損害金の支払いを保証する金融機関等の保証に係る保証書の提出

[注] イ 債務不履行により生ずる損害金の支払いの保証ができる者は、出資の受入れ、預り金及び金利等の取締りに関する法律（昭和 29 年法律第 195 号）に規定する金融機関である銀行、信託会社、保険会社、信用金庫、信用金庫連

合会、労働金庫、労働金庫連合会、農林中央金庫、商工組合中央金庫、信用協同組合、農業協同組合、水産業協同組合若しくはその他の貯金を受入れを行う組合（以下「銀行等」という。）又は公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和 27 年法律第 184 号）第 2 条第 4 項に規定する保証事業会社（以下「金融機関等」と総称する。）とする。

- ロ 保証書の宛名の欄には、「発注者名（記載例参照）」と記載するように申し込むこと。
- ハ 保証債務の内容は工事請負契約書に基づく債務の不履行による損害金の支払いであること。
- ニ 保証書上の保証に係る工事の工事名の欄には、工事請負契約書に記載される工事名が記載されるように申し込むこと。
- ホ 保証金額は、契約保証金の金額以上とすること。
- ヘ 保証期間は、工期を含むものとする。
- ト 保証債務履行の請求の有効期間は、保証期間経過後 6 ヶ月以上確保されるものとする。
- チ 請負代金額の変更又は工期の変更等により保証金額又は保証期間を変更する場合の取扱いについては、発注者の指示に従うこと。
- リ 請負者の責に帰すべき事由により契約が解除されたときは、金融機関等から支払われた保証金は、地方自治法第 234 条の 2 第 2 項の規定により福島県に帰属する。なお、違約金の金額が保証金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。
- ヌ 請負者は、銀行等が保証した場合にあっては、発注者へ工事目的物の引渡し後、発注者から保証書の返還を受け、銀行等に返還するものとする。

(4) 債務の履行を保証する公共工事履行保証証券による保証に係る証券の提出

- [注] イ 公共工事履行保証証券とは、保険会社が保証金額を限度として債務の履行を保証する保証である。
- ロ 公共工事履行保証証券の宛名の欄には、「発注者名（記載例参照）」と記載するように申し込むこと。
 - ハ 証券上の主契約の内容としての工事名の欄には、工事請負契約書に記載される工事名が記載されるように申し込むこと。
 - ニ 保証金額は、請負代金額の 10 分の 1 の金額以上とすること。
 - ホ 保証期間は、工期を含むものとする。
 - ヘ 請負代金額の変更又は工期の変更等により保証金額又は保証期間を変更する場合の取扱いについては、発注者の指示に従うこと。
 - ト 請負者の責に帰すべき事由により契約が解除されたときは、保険会社から支払われた保証金は、地方自治法第 234 条の 2 第 2 項の規定により福島県に帰属する。なお、違約金の金額が保証金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

(5) 債務の不履行により生ずる損害をてん補する履行保証保険契約に係る証券の提出

- [注] イ 履行保証保険とは、保険会社が債務不履行時に、保険金を支払うことを約

する保険である。

- ロ 履行保証保険は、定額てん補方式を申し込むこと。
- ハ 保険証券の宛名の欄には、「発注者名(記載例参照)」と記載するように申し込むこと。
- ニ 証券上の契約の内容としての工事名の欄には、工事請負契約書に記載される工事名が記載されるように申し込むこと。
- ホ 保険金額は、請負代金額の10分の1の金額以上とすること。
- ヘ 保険期間は、工期を含むものとする。
- ト 請負代金額の変更により保険金額を変更する場合の取扱いについては、発注者の指示に従うこと。
- チ 請負者の責に帰すべき事由により契約が解除されたときは、保険会社から支払われた保険金は、地方自治法第234条の2第2項の規定により福島県に帰属する。なお、違約金の金額が保険金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

2 1の規定にかかわらず、落札額が500万円未満となる場合は、契約の保証を付さない。ただし、契約締結後、請負代金額の変更により変更後の請負代金額が500万円以上となるときには、約款第4条に規定する契約の保証を付すものとし、この場合は1の規定を準用する。

記載例：福島県立磐城桜が丘高等学校長 佐々木 孝司

見積内訳書を作成する際の留意点について

最近、見積内訳書の記載内容の不備により無効となるケースが増えています。

見積内訳書は、入札参加者が適切に積算しているかどうかを判断する上で大変重要な書類ですので、その作成にあたっては以下の点に十分留意願います。

- 見積内訳書は、記載例の様式の注意事項にあるように値引きの表示は認めておりません。下記の例のように、金額を引き下げた部分は引き下げをした後の金額（単価）で見積金額を記載してください。

(例1) 単価の端数金額を値引いた計算は行わない。

	数量	単価	
(誤) ○○○工	130 m ²	2,508 円	= 325,000 円 (計算が合わないため誤計算)
			↓
(正) ○○○工	130 m ²	2,500 円	= 325,000 円

※ 130 m² × 2,508 円 = 326,040 円となるので、326,040 円と記入するか、又は 325,000 円と見積もりたい場合は、誤計算とならないよう単価を 2,500 円として記入する。

- 金額のまるめとして端数金額を値引きしている例がみられますが、表示方法によっては、見積金額と入札金額の不一致とみなされ、また、まるめ金額が千円以上となっている場合は千円以上の誤計算とみなされ、入札書が無効となります。ので十分にご留意ください。

なお、記載すべき項目の漏れや誤計算の金額がそれぞれ千円以上の場合も無効となりますので、郵送する前に十分チェックしてください。

(例2) 合計欄等でまるめ値引きは行わない。

(誤) 工事原価	10,000,000 円	
一般管理費	2,345,000 円	
工事価格	12,345,600 円	
工事価格 (まるめ)	<u>12,340,000</u> 円	(引下げ項目が不明な値引き)
(正) 工事原価	10,000,000 円	
一般管理費	<u>2,345,000</u> 円	
工事価格	12,345,600 円	

※ 一般管理費など実際に値引いた項目の金額 (単価) を引下げた誤の金額で表示する。

- 「金抜設計書における種別レベルまでの工種について記載する。」ことになっていますが、見積内訳書の種別レベルの数量が1式表示となっている場合は、適切に積算されていないと判断され、無効となりますので、金抜設計書の種別レベルで数量が1式表示されている場合であっても、見積内訳書は1式表示せず、金抜設計書と対比可能な「数量×単価」の内訳まで記載してください。(数量×単価の不明な1式表示が一部分であっても全て無効として取り扱います。)

なお、金抜設計書の種別レベルが不明又はわからない場合は、入札公告における設計図書等に対する質問の受付先に問い合わせてください。

(例3) 種別レベルの数量を1式表示しない。

	数量	単価	金額
(誤) ○○○工	1 式		1,000,000 円
△△△工	1 式		1,500,000 円
□□□工	1 式		2,000,000 円
	↓		
(誤) ○○○工			1,000,000 円
内訳	100m	× 2,500 円 =	250,000 円
	100m	× 7,500 円 =	750,000 円
△△△工			1,500,000 円
内訳	50 m ²	× 10,000 円 =	500,000 円
	50 m ²	× 20,000 円 =	1,000,000 円
□□□工	1 式		2,000,000 円
内訳	200 m ²	× 8,000 円 =	1,600,000 円
	1 式		400,000 円
内訳	▲▲▲工 300m	× 1,000 円 =	300,000 円
	■ ■ ■工 500m	× 200 円 =	100,000 円

- 共通仮設費、現場管理費、一般管理費等の諸経費については、1式表示を認めます。

福島県条件付一般競争入札心得

(目的)

第1条 福島県が発注する建設工事に係る条件付一般競争入札による入札に参加しようとする者（以下「入札参加者」という。）は、法令に定めるもののほか、この心得の定めるところにより入札しなければならない。

(入札保証金)

第2条 入札保証金の納付は免除する。ただし、落札者の通知を受けた者が契約を締結しないときは、見積りに係る金額（消費税及び地方消費税を含む。）の100分の3に相当する金額を納付しなければならない。

(入札の方法等)

第3条 入札参加者は、入札公告、福島県工事請負契約約款、金額抜き設計図書、仕様書、契約の方法及び入札の条件及び現場等を熟知のうえ入札しなければならない。

2 入札参加者は、入札書及び見積内訳書（以下「入札書等」という。）を一般書留、簡易書留又は配達記録郵便のいずれかの方法により、かつ、入札公告で示した提出期日を指定した配達日指定郵便で郵送しなければならない。

3 前項の方法以外の方法により提出された入札書等は、無効とする。

4 入札参加者は、入札書等を次の方法で郵送しなければならない。

(1) 外封筒及び中封筒の二重封筒とすること。

(2) 入札書及び見積内訳書を中封筒に入れ、封かんの上、中封筒の表面に入札参加希望者の商号又は名称、工事名、工事番号、工事箇所及び開札日を記載すること。

(3) 外封筒には、入札書等を封入した中封筒を入れ、外封筒の表面に入札参加希望者の商号又は名称、工事名、工事番号、工事箇所、開札日、担当者、担当者連絡先（電話番号及びファクシミリ番号）及び入札書等在中の旨を記載すること。

5 入札参加者は、一度郵送した入札書の書換え、引換え又は撤回をすることはできない。

(入札を無効とする申出)

第4条 入札参加者は、入札書等を郵送した日から落札候補者の通知を受けた日までの間に、予定していた技術者が配置できない事由が発生した場合には、郵送した入札書等を無効とする申出をすることができる。この場合においては、第2条のただし書きの規定は適用しない。

2 前項の申出をせずに契約を辞退をした場合には、入札参加資格制限の措置を受けることがある。

(公正な入札の確保)

第5条 入札参加者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）その他法令の規定に抵触する行為を行ってはならない。

(開札)

第6条 開札は、入札公告に示す日時及び場所において行うものとする。

2 開札は、公開とする。

3 開札には、当該入札事務に関係のない職員を立ち合わせるものとする。

4 同じ価格をもって入札した者が2人以上あるときは、別に定める「郵便入札におけるくじ」の方法によりくじを行い、順位を決定するものとする。

5 開札したときは、直ちに入札書及び中封筒の記載事項を確認し、無効又は失格の入札を行った者があった場合には、当該入札者名及び当該理由を読み上げるものとする。

6 前項の確認を行った後、無効又は失格の入札を除き最低価格の入札をした者（総合評価方式による入札にあっては、評価値が最も高い者）から第3順位までの入札者（以下「落札候補者」という。）を落札候補者として入札金額及び入札者名を読み上げるものとする。

(落札決定の保留)

第7条 落札候補者を決定したときは、落札決定を保留し、落札候補者のうち第1順位の者から順に入札参加資格の確認を行った上、後日落札者を決定する。

(第1順位の落札候補者に対する通知)

第8条 第1順位の落札候補者が開札に立ち会わないときは、開札後速やかに当該落札候補者に電話等確実な方法により通知するものとする。

(入札参加資格確認書類の提出)

第9条 入札参加資格確認書類の提出の指示を受けた落札候補者は、指示を受けた日から起算して3日以内(福島県の休日を定める条例(平成元年福島県条例第7号)第1条第1項に規定する県の休日を除く。)に提出しなければならない。

2 落札候補者が前項に規定する期間内に入札参加資格確認書類を提出しないとき又は入札執行権者が入札参加資格確認のために行う指示に従わないときは、当該入札は入札参加資格のない者のした入札とみなし、無効とする。

(落札者の決定)

第10条 入札を行った者のうち、予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって入札した入札参加資格を有する者を落札者とする。ただし、地方自治法施行令(昭和22年政令第16号。以下「施行令」という。)第167条の10第1項の規定を適用する必要があると認めるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって申込みをした者のうち最低の価格をもって申込みをした者以外の者を落札者とする場合がある。この場合、契約内容に適合した履行に関する調査(以下「低入札価格調査」という。)を実施し判断するものとする。

2 施行令第167条の10第2項の規定を適用する必要があると認めるときは、予定価格の制限の範囲内の価格で最低制限価格以上の価格をもって申込みをした者のうち最低の価格をもって申込みをした者を落札者とする。

(入札書の無効等)

第11条 次の各号のいずれかに該当する入札書は、無効とする。

(1) 第3条第2項に規定する方法以外の方法により提出された入札書

(2) 入札公告に示す指定日以外の日に着した入札書(郵便事故によって指定日以外に着したものであって開札に間に合うものを除く。)

(3) 入札参加資格のない者が入札した入札書

(4) 入札公告で示した提出先以外に着した入札書(郵便事故によって提出先以外に着したものであって開札に間に合うものを除く。)

(5) 外封筒及び中封筒に商号又は名称が記載されていないなど開札前に入札参加者が特定できない入札書

(6) 鉛筆書きによる入札書

(7) 中封筒又は見積内訳書の表記が誤字、脱字、未記載等により対象案件が特定できない入札書

(8) 同一の入札参加者が2通以上提出した入札書

(9) 見積内訳書を提出しない者が入札した入札書

(10) 中封筒に入っていない入札書

(11) 入札書の日付がない又は公告日から開札日までの期間内の日付となっていない入札書

(12) 金額の記入がない、金額を訂正した又は金額が判読できない入札書

(13) あて先、商号又は名称、押印のいずれかがない入札書

(14) 入札書の工事名、工事番号、工事箇所のいずれかが記載されていない入札書

(15) 入札書の工事名、工事番号、工事箇所のいずれかが入札公告と一致しない入札書(軽微な誤字、脱字等であって意思表示が明確であるものを除く。)

(16) 見積内訳書の積算価格と入札書の入札金額が一致しない(見積内訳書の積算価格と入札書の入札金額の差が千円未満である場合は除く。)入札書

(17) 提出期限内に入札参加資格確認書類を提出しない者の入札書

(18) 虚偽の入札参加資格確認書類を提出した者の入札書

(19) 入札制度等監視委員会において談合の事実が確認された場合の入札書

(20) 上記(1)から(19)に掲げるもののほか、入札公告、入札心得において示した入札条件に違反して入札した入札書

2 入札制度等監視委員会において談合の事実が確認されなかった場合であっても、談合の疑いが払拭できないとされた場合は、その入札書を無効とする。

3 次の各号のいずれかに該当する入札書は、失格とする。

(1) 入札金額が最低制限価格を下回る入札書

(2) 低入札価格調査の結果、契約の内容に適合した履行がされないと判断された者の入札書(契約保証金等)

第12条 契約保証金の納付等については、別に定めるところによる。

(契約書等の提出)

第13条 契約書を作成する場合においては、落札者は、契約権者が指示する契約書案に住所・氏名その他必要な事項を記載し、これに記名押印し、関係書類を添えて落札決定の日から起算して7日以内に、これを契約権者に提出しなければならない。ただし、契約権者の書面による承諾を得て、この期間を延長することができる。

2 落札者が、前項に規定する期間内に契約書案を提出しないときは、落札は、その効力を失う。

3 契約書の作成を要しない場合においては、落札者は落札決定後速やかに契約権者が指示する請書を提出しなければならない。ただし、契約権者がその必要がないと認めて指示したときは、この限りでない。

(質問及び異議の申立て)

第14条 入札参加者は、この心得に疑義がある場合は、その疑義について入札前において質問することができる。

2 入札書等の提出後、この心得についての不明を理由として、異議を申し立てることはできない。

附 則

この心得は、平成19年4月1日以降に起工の決定を行うものについて適用する。

この心得は、平成19年10月1日以降に公告を行うものについて適用する。

この心得は、平成20年1月1日以降に公告を行うものについて適用する。

この心得は、平成20年4月1日以降に公告を行うものについて適用する。

無効の事例等(H20.7月)

事例	取扱い		理由
一般「書留郵便」で指定日に届いたが配達日指定郵便でなかった。	無効	心得11条1項1号 該当	心得の規定により無効とする。
外封筒のあて先が間違っていたことにより、指定期日に別事務所に届けられた。	無効	心得11条1項4号 該当	心得違反
中封筒の封緘がなされていない。	無効	心得11条1項20項 該当	心得の規定により無効とする。
見積内訳書が中封筒の中に入っていない。(外封筒の中に入っていた。)	無効	心得3条4項 11条1項20号	心得の規定により無効とする。
見積内訳書の記載が非常に簡略である。(種別レベルの内訳がない。一式表示となっている。)	無効		見積内訳書を作成する際の留意点を参照
見積内訳書の一部の工種に計算ミス(千円以上)があった。この部分が正しい場合には見積内訳書の合計と入札金額とは不一致となる。	無効	心得11条1項16号 該当	心得の規定どおり無効とする。
入札参加資格の要件が『『建築工事』の名簿登録及び『とび土工』の許可』である場合において、受任先の支店が入札に参加した。その支店は『建築工事』の受任は受けているが『とび土工』の許可は受けていない。本社は『建築工事』の名簿登録及び『とび土工』の許可を受けている。なお、本社は地域要件を満たしていない。	無効	心得11条1項3号 該当	今回の工事はとび土工工事であり、とび土工の許可を有していない支店は建設業法の規定により営業行為(入札・契約)を行うことができない。 ※なお、例えば地域要件が「隣接3管内」や「県内」で、本会社が地域要件を満たすのであれば、こうした場合は本が入札・契約を行うことが可能である。
総合評価方式入札において技術提案書(様式第1号)の提出がない。(他の様式は提出された。)	無効	心得11条1項20号 該当	公告(入札説明書)違反
総合評価方式入札において、見積内訳総括表(低入札価格調査事務処理要領様式第6号)の提出がない。	無効	心得11条1項20号 該当	公告(入札説明書)違反
総合評価方式で見積内訳総括表(低入札価格調査事務処理要領様式第6号)を中封筒に入れるべきところ、外封筒に入っていた。	無効	心得11条1項20号 該当	公告(入札説明書)違反
総合評価方式で落札候補者決定後、技術評価加算点の確認書類が提出されなかった。	無効	心得11条1項20号 該当	公告(入札説明書)違反
施工体制事前提出方式で、工事費内訳書(様式1号)に記載された工種が、県の公告した工種と異なる。	無効	心得11条1項20号 該当	様式の注意書き「※行及び列の追加、削除は行わないこと」に違反しており、失格基準による判定が出来ないため。

入札書と一緒に提出する書類一覧表(H20. 7月)

入札方法	提出書類	外封筒	中封筒
条件付一般競争入札	入札書		○
	見積内訳書		○
総合評価方式 (低入札価格調査制度)	入札書		○
	見積内訳書		○
	見積内訳総括表(低入札価格調査事務処理要領様式第6号)		○
	技術提案書	○	
総合評価方式 (施工体制事前提出方式)	入札書		○
	見積内訳書		○
	工事費内訳書(様式1号)		○
	下請工種内訳書(様式2号)		○
	フロッピーディスク(工事費内訳書(様式1号)を記録したもの)		○
	技術提案書	○	

※封筒の外または中に入れる書類を間違えると無効になります。

見積内訳書(記載例)

				工 事 名	〇〇〇工事
				工 事 番 号	第〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇号
				商 号 又 は 名 称	〇〇建設株式会社
費目・工種・種別など	数 量	単 位	単 位	金 額	備 考(記載上注意すべき点)
(例)本工事費					
道路工					
切 土	1,000	m ³	900	900,000	切抜き設計書における種別レベルまでの工種について記載する。なお、種別レベル以下の細別等については、低入札価格調査や談合情報があった場合に提出を求めることがあるため、速やかに提出できるよう準備願います。
盛 土	800	m ³	1,500	1,200,000	
擁壁工	200	m ²	7,000	1,400,000	
.					
.					
直接工事費				10,000,000	共通仮設費、現場管理費、一般管理費に計上する内容は、土木工事標準積算基準(公表)によるものとする。(率計上も可とする。) なお、値引き等については、記載しない。 工事価格は入札書の金額と一致させること。
共通仮設費	1.0	式		1,000,000	
純工事費(直接工事費+共通仮設費)				11,000,000	
現場管理費	1.0	式		3,000,000	
工事原価(純工事費+現場管理費)				14,000,000	
一般管理費	1.0	式		2,000,000	
工事価格(工事原価+一般管理費)				16,000,000	

※ 見積内訳書の積算価格と入札書に記載する入札金額とは一致しなければならない。

(ページ / ページ)

※ 設計図書の工事費内訳表に単価、金額を記載した形式とするが、これと同等の項目が含まれる独自様式の提出も認める。